
ゾンビですけどなにか？

雷覇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゾンビですけどなにか？

【Nコード】

N0590I

【作者名】

雷覇

【あらすじ】

親友とともに死にゾンビとして復活した、少し落ち着こうとしているのに魔装少女にさせられた。今ついてない少年達の物語が始まる

プロローグ

突然だが、俺秋月朱里と親友、相川歩は死んだ。
間違いなく死んだんだ。

二人仲良く胸をグサリだ。

けど・・・

なぜか生きてた。

いや、正確には死んだんだ。

今は生ける屍、いわゆる

ゾンビとして活動している

ゾンビというやつは意外にすごいんだぜ？

何と言っても身体能力ってやつが半端じゃない。

試してみたがトラック位だったら片手でも持ち上がる

だが弱点も大きい。

それは日の光だ、まったく動けないって訳でもないし溶けたりしないんだけど体が重い。生前より劣る。

まあ、なんの因果か知らないがゾンビになってしまったわけだ。

当面はせっかく生きてるんだ（死んでるけど）

楽しもじゃないか。

っと、あそこで俺と同じくゾンビになった親友が見知らぬ女の子と話している

「わかったぜ。その・・・魔装少女とやらにもなってやるし、家にも置いてやる」

親友が女装するそうです。・・・

・・・さらば親友よ

「そうと決まれば早速魔装少女になる練習をするわよ！」

女の子が意気揚々と張り切っている
ううっ、親友が人の道から外れて行く。
止められない俺をゆるしてくれ友よ。

「ただし、一つ条件がある」

「何？変なことなら、蹴るからな」

「俺のことはお兄ちゃんと呼んでくれ」

ドスッ（思いつきり首を蹴る音）

・
・
・
さらば親友よ

第一話

前回俺は親友の人の道を外れるのを黙って見てるだけだった。

だが、勇気を持って止めてやろうじゃないか!!
例えこの友情にひびが入ろうとも!!

『歩ーーーーー!!』

「ん? おお、おかえり朱里」

『あ……うん、ただいま』

……ゆるしてくれ友よ

「どうしたよ? 大声だしてさ?」

『いや……自分の無力を嘆いていたただけだ』

「ちょっと、あんたなに……」

ん? 女の子が話しかけてきた、けどなんで顔が赤いんだ? って真っ

赤じゃねえか!!!!?

さすがに心配になって慌てて返した

『ど、どうした? 顔真っ赤だぞ?』

「はひっ!? だ、大丈夫です! はい!」

ホントに大丈夫なんだろうか? まだ赤いけど・・・

『えっと、俺は秋月朱里。この歩ん家で厄介になってるんだわ。君も今日から歩ん家に住むんだよね?』

「は、はいハルナです。ふ、ふつつか者ですがよろしくお願いします」

ふつつか者って・・・

『よろしくな、ハルナ!』

自分なりに精一杯の笑顔に向けた。

一緒の家に住むわけだし、第一印象は大事だからな。

「・・・・・・・・」

なんだ? 固まったぞ? しかも顔どころか首まで真っ赤だ。

『めんどくなってきたな』

しかたないので手をひいて家に向かうことにした。

途中歩が俺の萌えがうとか言ってたが無視だな。

家でちゃんと事情を聞くとしますか。

こうして俺と歩の日常は少しずつ崩れていった。
まあ、ゾンビって時点で非日常だけだな

第二話

目が覚めると、すでに授業は終わり、昼休みに入っていた。

さて弁当を食べるとしようかな。

取り出したる弁当は俺の大切な義妹が作ってくれた物と昨日から家に住むことになったハルナが作ってくれた物と二つある。

両方とも美味しいな義妹の弁当はいつもどうり美味しいしハルナの卵焼き弁当も美味かった（一面卵焼き）

義妹のことは後でな

『美味かったな』

「ああ、卵焼きであれほどの感動を得たのは初めてだったぜ、けどご飯が欲しかったな」

まあ、文字どうり卵焼きだけだったからな

友達に食べさせてあげたら軽く涙流してたからな

午後の授業も無事に終わった。それにしても昼過ぎの日差しは堪えたな、歩もぐったりしてる。

現在教室にはほとんど生徒は残っておらず、だいたいの生徒は部活に励んでいる。

いつものように俺と歩、そしてもう一人の親友、織戸と談笑している

「相川。そういやお前、最近帰るの遅いな。なにやってんだ？」

「寝てる」

「あんだけ寝たのにか？秋月を見習えよ」

まあ、俺もあの日差しはキツイし倒れそうになったこともある。無理もないかな

「お前らは家近いから、大丈夫だろうけどさ。最近、殺人事件が多いじゃん？気いつけるよ」

こんな俺達を心配してくれるなんて、やっぱり優しい奴だな。最近頻繁にバラバラ殺人が起こっている、恐らく同一人物だ。そして、俺と歩を殺したのもそいつだろう。今となっては、俺達が殺す側だが。

そんな話しが終わって日が落ちゾンビの活動時間になった。

『ん？なんだあれは？』

キラリとなにか光ったと思ったら窓をぶち破り教室になにか入ってきた

・・・ザリガニだ

しかも学ラン着てるし

「魔力を感じてやって来てみれば・・・」

学ランについたガラスの破片をハサミで落としている

人間くせえザリガニだな

「・・・小物か」

・・・ザ、ザリガニの分際で！！

『その言葉、次話で後悔させてやるよザリガニ』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0590i/>

ゾンビですけどなにか？

2010年10月12日06時25分発行